

■ 令和5年度「かみかわ有機農業研修会」を開催 ■

令和6年2月29日に、かみかわ有機農業研修会を上川農業改良普及センター本所及びオンライン配信により開催しました。参加人数は、農業者、関係機関、食関連事業者など82名と盛況な研修会となりました。内容は以下の講演と有機農業ネットワークの活動紹介が行われました。

1 講演 「有機農産物にかかる取り組みと課題について」

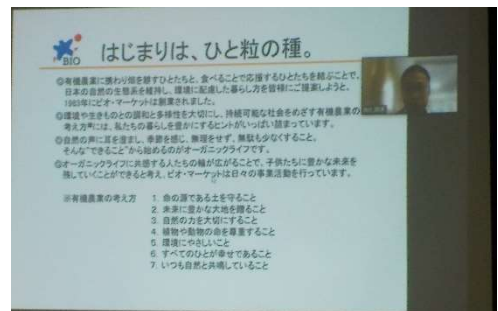
有機農産物及び有機加工食品の小売・卸売事業を営んでいる(株)ビオ・マーケット常務取締役 岡本真一氏より Zoom にて講演いただきました。

有機 JAS 制度ができる前から、有機的栽培の農産物取り扱っていること、調和・多様性・持続可能を創業当時から大事にやってきた会社であるとの紹介がありました。

野菜・米は基本的に有機 JAS 認証取得品を取り扱っている、MD システム(消費者の欲求・要求を満たす商品を適切な価格と数量、タイミングで提供するための活動)による有機 JAS 認証取得農家への生産委託、適地適作・旬のリレー体制の構築、ビオ・マルシェ(定期宅配)の取り組み、等について説明がありました。

課題としては、①安定した供給体制、②作る側食べる側が継続できる適正な価格、③生産の背景の情報発信、が上げられました。

出席者から、「農家からの取引に対する問い合わせ対応」「転換期間中有機農産物の事前相談」「小売価格」「販売が徐々に伸びている要因」など多くの質疑が行われました。



講演の様子



会場の様子



質問する農業者

2 講演 みどりの食料システム戦略及び令和6年度当初予算関連事業について

農林水産省北海道農政事務所 旭川地域拠点より、グリーンな栽培体系への転換サポート、温室効果ガス削減とその見える化等の施策について、説明いただきました。

温室効果ガス星ラベルの道内状況、有機 JAS 認証に対する支援について質疑が行われました。



講演の様子

3 講演 水田抑草効果が期待できる「アイガモロボット」実証実験について

(株)斗セキ北海道からアイガモロボの概要説明が行われた後、上川農業改良普及センター本所より実証試験結果の説明が行われました。

ロボ稼働期間中は抑草が上手くいき残草は少ない、ロボ撤収後からは残草が徐々に多くなった、ロボ撤収5日後にアイガモを「ロボ区」へも自由に往来できるようにした、ロボ撤収後の処理が課題となる、労力節減に繋がる、機械除草との比較なども検証してはどうか、との報告がありました。

実証試験に取り組んだ農業者の意見として、①雑草の抑制効果は十分にある、②アイガモより圃場全体をまんべんなく回るため効果が均一、③アイガモだと苗が抜かれたり傷んだりするがロボだとそれが少ない、④準備や稼働期間中の操作が便利(省力)、⑤課題は高い均平精度が求められることと害虫対策である、と報告がありました。今後、ロボを活用したいと考えている、多くのユーザーがアイガモロボの価値を理解してもらい利用できることを願う、と結ばれました。



講演の様子

4 報告 かみかわ有機農業ネットワーク令和5年度活動実績報告及び令和6年度活動予定

ネットワークの概要と令和6年度活動計画として、会員の取組状況把握、圃場現地検討会、地産地消収穫祭、研修会、が予定されていることが報告されました。

企画検討委員を始め、会員の皆さんの意見を伺いながら活動を進めていくことが報告されました。

令和5年度の研修会は、販売、施策、生産技術を網羅した内容で、有機農業の推進や課題解決に向けた機運醸成に繋がる研修会となりました。

令和6年度は、土作りをテーマに現地検討会を予定しています。